

令和5年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和高等学校）

（学校番号 s 4 8）

目指す学校像	中高一貫校として特色ある取組を進めるとともに、高いレベルの教育活動を積極的に展開し、明るく活力があり、高い志をもって輝き続ける生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 中高一貫校の特性を活かした質の高い学びを展開する。 2 「文武両道」の理念に立ち、調和の取れた教育活動を進めるとともに、第1志望の進路を実現する。 3 国際理解教育の充実と開かれた学校づくりの推進を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
年 度	目 標	年 度 評 価	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】 中高一貫校の特性を活かした多様な教育活動を進め、内進生と高入生が相互に高め合える体制づくりを進めることにより進学実績も向上している。</p> <p>【課題】 新学習指導要領や高大接続改革等を踏まえ、「学び合い」や「個別最適化学び」の推進、英語4技能の向上への取組、ICT等を活用した学習方法の一層の充実を進める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫校の特性を活かした指導の充実</li> <li>・中高連携した授業の充実</li> <li>・新学習指導要領や高大接続改革、ICT等を活用した学習方法の一層の充実</li> <li>・教員の指導力向上と授業改善による質の高い学びの充実</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①中高合同の教育活動を充実させる。</li> <li>②高校教員による中学授業などにより連携の充実を図る。</li> <li>③全学年で導入したiPadを授業で活用する。また、ICT等を活用し在宅学習を支援する。</li> <li>④AL等による授業改善や大学入試改革に対応した学習指導を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①評価アンケートでの肯定的回答数(率)。</li> <li>②中高連携授業の充実が図られたか。</li> <li>③生徒のiPad活用状況。ICT等を活用した学習支援が図られたか。</li> <li>④評価アンケート「授業の満足度」等の肯定的回答数(率)。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の中高連携に対する肯定的回答率は80.0%で、前年度の75.4%より4.6ポイント増加した。</li> <li>②授業の連携に加え、中学校の夏休み補習で高校生が学習支援を実施した。</li> <li>③生徒アンケートでは、「iPadが学力向上に役立っている」という項目で、どの学年も90%を超える生徒が肯定的な回答。</li> <li>④授業評価は、分かり易い、実力がつく、で約90%の高評価。やる気を引き出す、は83.0%が肯定的な回答。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内進生と高入生のそれぞれの特性を生かした教育活動の展開や切磋琢磨により進学実績も向上。今後も「チーム市高」として相互に高め合える体制づくりを進めていく。</li> <li>○今年度より全学年がiPadを持ち、スムーズに授業等に活用している。</li> <li>○今年度も授業等、教育活動での活用が一層充実するよう努めたい。</li> <li>○引き続き、「学び合い」や「個別最適化学び」を進めるとともに生徒のやる気をより高める授業改善に取り組みたい。</li> </ul>
2	<p>【現状】 第1志望を諦めない高い志の育成は定着してきている。学業、部活動、学校行事と「文武両道」にバランスの取れた教育活動を展開し成果を上げている。</p> <p>【課題】 高い志の育成に引き続き取り組むとともに、生徒が主語となる教育の推進、複数チャンネルによる「寄り添う」支援の充実を図ることが求められる。</p> <p>また、「やりがい」を意識した働き方改革を踏まえつつ、伝統校としての良さを継承し、行事や部活動等、生徒一人一人の学校生活の充実を支援していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い志を育てる計画的で戦略的な学習指導、進路指導の実施</li> <li>・生徒、保護者と連携した、個に応じた指導の充実</li> <li>・ICT等を活用した働き方改革の実施</li> <li>・部活動や学校行事の奨励と積極的支援</li> <li>・主権者意識を高め「生徒が主語となる」生徒指導の推進</li> <li>・「心のケア」を支える教育相談の充実</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「将来の選択」を充実させる観点から大学入学共通テスト「フル受験」を推奨する。</li> <li>②個人面談の充実を図り、生徒の意欲を引き出し、生徒や進路関連の的確な情報を提供する。</li> <li>③業務改善に資するICT等の活用を推進する。</li> <li>④「部活動に係る活動方針」を踏まえ、積極的な活動支援を行う。</li> <li>④挨拶の励行、登下校の安全とマナー、いじめ防止、SNSの安全な利用等、生徒が自ら考えて取り組む生徒指導を推進する。</li> <li>⑤柔軟な日程調整等、生徒相談の充実を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①大学入学共通テスト900点満点受験者数(率)。</li> <li>②個人面談を生徒一人につき年3回以上実施できたか。</li> <li>③ICT等を活用した業務改善数</li> <li>④学校行事や部活動等の活動状況及び成果(表彰数)。</li> <li>⑤評価アンケート「生徒規律に関する項目」の肯定的回答数(率)。</li> <li>⑥不安を抱える生徒の学校生活を支援できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①900点満点受験率は61.5%となり、3年連続で60%を超えた。新設される科目「情報」への対応を進めた。</li> <li>②担任と副担任が連携を取り、生徒一人当たり年3回以上の個人面談を全学年で実施できた。</li> <li>③欠席・遅刻連絡や学校評価等のアンケートをe-paやClassi等で実施。</li> <li>④コロナ前に戻しながら体育祭、文化祭、海外修学旅行を開催。また、部活動を市の方針に則って実施。12月末時点での伝達表彰数(延べ)49件。</li> <li>⑤規律に関する肯定的回答92.2%、交通安全への意識も99.7%と肯定が多く、学校の生徒指導が機能した。</li> <li>⑥定期的に生徒相談委員会を開き情報共有を図るとともに、不安のある生徒をSCに繋ぐことができた。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年3回以上の個人面談等を通じて、引き続き第1志望を諦めない高い志を育成していく。今後も「フル受験」を推奨し、本校のすべての学びに取り組みせたい。</li> <li>○部活動に係る方針に則りながら、引き続き文武両道の進学校を目指したい。働き方改革については、次年度も、無理なくできるICT等を活用した業務改善を検討していく。</li> <li>○評価アンケートでは昨年に続き各項目で肯定的な回答が多かった。コロナ前に戻しつつ、より良い形を検討しながら体育祭、文化祭、海外修学旅行等を開催できたことは成果である。次年度も生徒が充実感、肯定感を高く持てる教育活動を目指したい。</li> </ul>
3	<p>【現状】 国際理解教育は、コロナ禍においても、交換留学生の受入れや学校行事での留学生との交流等、安全に配慮しつつ国際交流に取り組んでいる。開かれた学校づくりは、連絡メール(e-pa)やHPを活用し、生徒・保護者への情報提供や教育活動の発信を行っている。</p> <p>【課題】 生徒の安全に配慮しつつ、海外交流や、国際的視野での教育活動を一層充実させる必要がある。また、保護者や受検生等のニーズに応え、土曜公開授業、学校説明会やその他の地域連携の機会を活用し、本校の教育活動を積極的に発信していくことが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な計画に基づいた国際理解教育の更なる充実</li> <li>・さいたま市の国際交流事業等の積極的な活用</li> <li>・積極的な学校情報の発信</li> <li>・地域連携の充実</li> <li>・生徒募集の充実</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①安全な計画に基づき、国際交流事業を推進する。また、SDGs及びSTEAMSの視点を取り入れ、「総合的な探究の時間」等を活用して、国際的視野で教育活動を展開する。</li> <li>②さいたま市の事業等の活用による国際交流機会の提供。</li> <li>③e-pa、HP等で学校の情報を積極的に発信する。</li> <li>④コミュニティスクール(学校運営協議会)の推進</li> <li>⑤土曜公開授業や学校説明会の内容を充実させる。</li> <li>⑥校外学校説明会や中学校訪問等の機会を活用し、保護者や受検生等への積極的な情報提供に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①国際交流事業への参加生徒の満足度と無事故の実施。「総探」等における生徒の発表等の成果物。</li> <li>②市事業等への参加生徒数。</li> <li>③情報発信数と閲覧件数。</li> <li>④学校運営協議会の各学期1回の実施。</li> <li>⑤土曜公開授業の公開数、学校説明会の参加者数。</li> <li>⑥生徒募集活動の実施数。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①海外修学旅行におけるグローバルシニアシップ研修は生徒の満足度が大変高かった。「MUHSグローバルセミナー」も充実した活動ができた。米国姉妹校交流は3月に派遣予定。</li> <li>②市の海外交流事業やワークショップに本校生徒及び教職員が参加。</li> <li>③学校HPでの情報発信数203件。閲覧数は4月から1月までで28万件を超えた。e-paによる情報発信も積極的に実施。</li> <li>④学校運営協議会での検討により、体育祭や文化祭の警備について、保護者・地域の方の協力を得られた。</li> <li>⑤土曜授業公開数17回。学校説明会は全22回実施、参加人数4,068人。</li> <li>⑥志願希望倍率(12月)では2.34倍。</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全な計画に基づき、学校行事等で現地学生や留学生との交流等、国際理解教育の充実を積極的に取り組んだ。また、3月には米国姉妹校交流を実施予定。次年度もグローバルリーダーの育成を目指し、国際理解教育を推進したい。</li> <li>○HPの部活動ブログの平均閲覧数が4,000件を超えた。トピックス等も定期的に更新するなど、積極的な情報発信ができた。次年度も引き続き積極的な発信に努めたい。</li> <li>○土曜授業公開、学校説明会だけでなく、1年生による中学校母校訪問を実施した。次年度も本校の魅力を伝えられるよう、積極的な情報提供に努めたい。</li> </ul>

学校関係者評価	実施日 令和6年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>○すばらしい教育活動がなされている。教職員の高い志と矜持を感じる。</p> <p>○中高連携での中学校の夏期講習で高校生が教える取組は、とても良いことと思うので、引き続き実施してほしい。</p> <p>○中高ともに授業参観をさせてもらったが、生徒が集中し学習に向かう姿が素晴らしかった。ICT等の活用含め、先生方が絶えず研究を進めているのだと感じられる。</p> <p>○授業に係る生徒アンケートの結果が、中学、高校ともに肯定的な回答が多いことは素晴らしい。</p> <p>○年3回以上の個人面談の実施等の取組が生徒を支えているとわかる。学校として生徒に寄り添う体制が整っている。</p> <p>○多くの教員がかかわることで、生徒の不安や悩みにしっかり対応している。その結果、落ち着いた学習環境が成り立っているのだと思う。</p> <p>○教職員の負担軽減につながるような、ICT等の活用方法を検討していく必要がある。</p> <p>○生徒の登校時の様子を見ても、生徒の規範意識の高さを感じられる。また、学校の校舎回りの清掃の丁寧さに感謝している。日々、綺麗な学校を見ることで、地域の環境美化について住民の意識も変わってきている。</p> <p>○コロナ前に戻した形で、海外修学旅行や文化祭等の学校行事が実施できたことは、大変良かったと思う。</p> <p>○SDGs ProjectやSTEAMSなど、「総合的な探究の時間」に学校として取り組んでいる点を評価したい。</p> <p>○MUHSグローバルセミナーでは、留学生に対して、多くの質問が出ていた。生徒たちの積極的な姿が見られる。</p> <p>○今年度、海外修学旅行を実施し現地学生等との交流ができたことは良かった。</p> <p>○職員の負担にならないように配慮しつつ、積極的な情報発信に努めてもらいたい。</p> <p>○保護者が近隣に住んでいる他の小中学校と違い、地域との連携を進めることに難しさはあるが、学校運営協議会を通じてwin-winの関係を構築できるよう、来年度も研究を続けてほしい。</p> <p>○高校1年生の母校訪問を実施するなど、魅力発信に係る新たな取組にチャレンジする姿勢が、志願倍率の高さにも反映されている。</p>